

## 新大衆劇場「立川けやき座」が誕生

JJ1SXA/池

前号(第92号)で、「立川が熱い」と言う記事を書きましたが、またまた立川に、新しく、大衆劇場「立川けやき座」が誕生し、8月1日にオープンしました。

JR立川駅北口より、徒歩6分、モノレール立川北駅より、徒歩3分でアクセスできる絶好のロケーションです。

私は、大衆演劇のファンではありませんが、今熱狂的なファンが増えているようです、私の頭の中では、終戦直後、娯楽の少ない田舎で旅回りの芝居、旅役者の演ずるものと言うような感覚が記憶されていますが、今、スターはメジャーです。

「下町の玉三郎」の通称で知られる梅沢富美男、「流し目王子」の通称で知られる早乙女太一、劇団竜劇隊の座長の沢竜二、「生きる博多人形」の通称で知られる松井誠、「平成の良太郎」の通称で知られる大川良太郎、「大衆演劇界の異端児」の通称で知られる近江飛龍、「大衆演劇界のニューヒーロー天才女形」の通称で知られる橘菊太郎劇団三代目座長の橘大五郎、「若ちゃん」の愛称で知られる、都若丸劇団三代目座長の都若丸、「異例の若丸一門」として知られる、若丸一門劇団時遊座長の烏丸遊也、「芝居の荒城」と大衆演劇界で知られる、劇団荒城の座長荒城真吾等が有名のようですが、私の知っているのは、「梅沢富美男」と「早乙女太一」くらい。

若い早乙女太一と比べ容姿端麗とは言いにくい中年オジサンの梅沢富美男の化けっぶりが見事です、女形に扮した彼の色っぽさは何とも言えません、流石、下町の玉三郎の名に恥じません。

流し目王子と称される、早乙女太一もその名に恥じず、本物の女よりも色っぽい、あの流し目に男ならくらくらと来るのでは無かろうか hi

Wikipediaによると、大衆演劇とは、…確立された定義はないとされるが、専門誌『演劇グラフ』にはおおよそ下記のような要件が定義されている。

- 1.劇場またはセンターで、観客にわかりやすく楽しめる内容の芝居を演じること
- 2.観客と演者の距離が近く、一体感があること
- 3.(歌舞伎や通常の商業演劇と比べ)安い料金で観劇できること

数名から数十名の規模で形成された劇団によってそれぞれ運営・実施され、劇団の主催者は座長とよばれ、世襲されることが多いらしい。

公演終了後には劇団員が総出で退出する観客を見送る送り出しが行われ、観客と演者との一体感を醸成するのに役立っているし、ショーのとき、最前のお客さんから「お花」と呼ばれるご祝儀(一万円札や五千円札をつなぎ合わせてレイにして役者の首にかけてたり、扇状にして胸元にさしたりする)を貰うことがある。…

そう言えば、関東モービルハムで、ショーに出演した歌手に、割り箸に1万円札を挟んだ「お花」を差し出すという粋なことをしたのは、下町の江戸っ子 OM だった。